

## 平成二十四年度第四十七回卒業証書授与式 校長式辞

厳しい寒さの冬も過ぎ去り、間近に春の足音が迫り、大自然の生命が一斉に輝き始めようとしています。

このよき日にあたり、深谷市議会議長 小森秀夫 様、都市整備部長 榎本守男 様、教育委員会委員長 柿澤俊雄 様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに深谷市立岡部中学校第四十七回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことに厚くお礼申し上げます。

岡部中学校を巣立っていく百七十二名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様方、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様の立派に成長された姿を前にして、今、喜びとともに様々なご苦労が心に浮かんでいることと存じます。

さて、皆さんは平成二十二年度にまだ大きめの制服に身を包み、本校に入学し、先生方の教えをよく守り、素直に明るく元気に学校生活を送り、日々成長してきました。

私が校長に着任したのも三年前でした。したがって同じ三年間を一緒に駆けてきたという思いがあります。その皆さんが本日、岡部中学校を巣立っていくことを、大変寂しく思います。しかし、別れがなければ新しい人生はスタートしません。万感の思いを込めて、式辞を述べたいと思います。

皆さんとの思い出は、歴史あふれる京都奈良への修学旅行。生徒の自主性、男女の協力を一層伸ばすとの考えから、班別行動を二日間にしました。不安な顔での出発でしたが、ホテルに到着したときの顔は、充実感に溢れていました。校長として最後の班が戻ったときには、ほっといたしました。また、最後まで粘り強く全力で戦ってくれた新人戦や学校総合体育大会では、柔道部、卓球部女子、卓球部男子、陸上部、県北大会で活躍したバレーボール部が県大会出場を果たしました。個人でもバドミントンで三年連続県大会出場や空手の全国大会出場の活躍があります。吹奏楽部は、県北吹奏楽コンクールにおいて二年連続で入賞を果たしました。書き初めでは、埼玉県知事賞、教育長賞など多くを受賞し、県下最優秀校との声をいただいております。

学校行事では、まず体育祭において、女子のヨサコイソーランと男子組体操など、一つ一つに心を込めた演技が私たちを感動させてくれました。また、音楽祭では、心を一つにして創り上げた皆さんの合唱、特に元二年三組の「空駆ける天馬」、そして今年の三年一組「走る川」、四組「木琴」、二組「モルダウ」は今でも素晴らしい演奏として心に残っています。クラスの力がまとまればここまでできるということを、後輩たちに素晴らしい手本として示してくれました。

さて、日本という国を見ると、皆さんが一年生の三月十一日には、東日本大震災があり、多くの犠牲を余儀なくされました。これから皆さんが進んでいく未来は、国際化、情報化、高齢化が一層進み、今までとは違った社会になると予想されています。厳しく言えば、多くの試練や困難が皆さんを待ち構えていることと思います。しかし、幾たびも苦しい、厳しい時代を乗り越えてきたのが日本であり、それは私たち日本人の誇りです。夢と勇気と希望を持って進めば、必ずや今以上のよりよい日本にしていくことができます。それは、未来はやってくるものではなく、私たちが創り上げていくものだからです。困難に直面したときは、困難を乗り越えるチャンスでもあります。そのために、自分はどうすればよいか、何ができるか、常に自分の生き方を自分が生きていく社会において模索していく必要があります。

本校では、教育ビジョンの「志を持ち、粘り強く取り組む生徒であれ！」に基いた教育を推進しています。本年度十一月に「第一回夢と志を語る会」を開催しました。すべての生徒が将来の夢を描き、そのために今為すべきことを考え、各学年の代表者が意見発表をしました。それらの

発表を聞いて大きな感動を覚えました。

イラストレーターになりたい、パティシエになりたい、医者、科学者、建築士、教師、看護師、薬剤師になりたい、ビジネスや商売の仕事をしたい。ぜひ皆さんの描いた夢を実現してほしいと思います。

夢の実現にあたっては、自分の利益や都合のことしか考えていない人は、成功しません。人のため、社会のために働くことができこそ、人としての真の喜びが得られるのだと思います。人のために生きることが最終的には自分自身のために生きることにもなるのです。

また、夢の実現までの道のりは、長くもあり短くもあると思います。夢の実現に向け、粘り強く努力していくことが大切なのはだれでも分かっているでしょう。しかし、私たちは時としてそのことから逃げたり、いい加減になってしまったりすることがあります。そんなときは、岡中で積み重ねてきた「岡中凡事徹底」のようなできて当たり前のことこそ一生懸命取り組んでください。一生懸命行ってこそその価値があります。例えば、「あいさつ」について、おはようございますとただ口にするのとあいさつするときの姿勢、笑顔、気持ちにも気を配る一生懸命のあいさつには、大きな差があります。

どんなことにも一生懸命取り組むことは大きな意義があります。皆さんが入学するとき中学校の三年間はゴールデンエイジだと話したことを覚えていますか。大きく成長することのできる黄金世代という意味です。入学したときあんなに小さかった皆さんが、今は心身ともに大きく成長しました。出来なかったことが出来るようになりました。分からなかったことが分かるようになってきました。心も体も大きく成長しました。それは、ゴールデンエイジをここにいる一人ひとりの皆さんが一生懸命生きてきたからです。一生懸命学ぶ。一生懸命働く。一生懸命にまसरものはありません。

学校訪問をしてくださった教育指導者から、「岡部中学校は県北部でもっとも良い学校です。」と書いていただけたのも、授業に一生懸命取り組んでいた卒業生の皆さんのおかげです。

学校を訪れる方の多くが、「生徒がよくあいさつをしてくれる、学校がきれいです。」と書いてくださるのも、あいさつや委員会活動などに一生懸命取り組んでいた卒業生の皆さんのおかげです。

そして、岡中の生徒、教職員が毎日気持ちよく学校生活を送ることが出来るのも、先輩として後輩を良い方向に導き、先生方のいうことをよく守って、規律正しい学校を築いてくれた卒業生の皆さんのおかげです。皆さんは岡中の新たなレジェンド・伝説を築き上げてくれました。本当にありがとうございます。

そんな卒業生も今日で本校を巣立っていきます。私は、ここにいる卒業生一人ひとりを自信と誇りを持って次のステージへ送り出すことが出来ます。自慢の卒業生です。

人生は自分探しの旅のようなものです。そして、皆さんがただいま受け取った卒業証書は、岡中発幸福行きの切符です。どうぞ、健康に注意し、ご活躍ください。

結びに、三年間にわたりご理解とご協力をいただきました保護者及び地域の皆様に深く感謝申し上げます。式辞といたします。

平成二十五年三月十五日

深谷市立岡部中学校 校長 大澤 誠一